

平成 30 年度三朝大学 第 5 回「防災講座」 開催レポート

平成 30 年 9 月 13 日（木）三朝大学第 5 回「防災講座」を開講しました。

三朝町総合文化ホール大会議室で開かれた今回は 48 名の受講生が参加しました。

今回の防災講座では、「災害時における自助、共助」と題して鳥取大学の理事兼副学長の榎見吉晴（まつみ よしはる）教授にご講義いただきました。

榎見教授は地域防災にご精通されており様々な自治会等で防災に関する講座等を開催されています。

本町においても皆様のお宅に配布されている『防災マップ』の作成にかかわっていただきました。

○降雨災害による被害者はゼロでなくてはならない！



近年、大雨や台風、地震などの大きな災害が発生し、全国各地で多くの方が亡くなられたり、被害にあわれたりしています。

そうした中で、榎見先生が講義の中で強調されていたのは「降雨災害による被害者はゼロでなくてはならない！」ということでした。

その理由として地震等のいつ発生するか予測できない災害と異なり、降雨災害は気象情報などを通じてあらかじめ予測可能な災害であるため、きちんと準備をして、早めに避難するなどの対応を行えば災害は防げなくても、災害によって命を落とすことは防げるとのことでした。

そして、それを実現するためにどんなことが必要かといったことを講義の中でお話し

れました。

○災害発生時には自助・共助

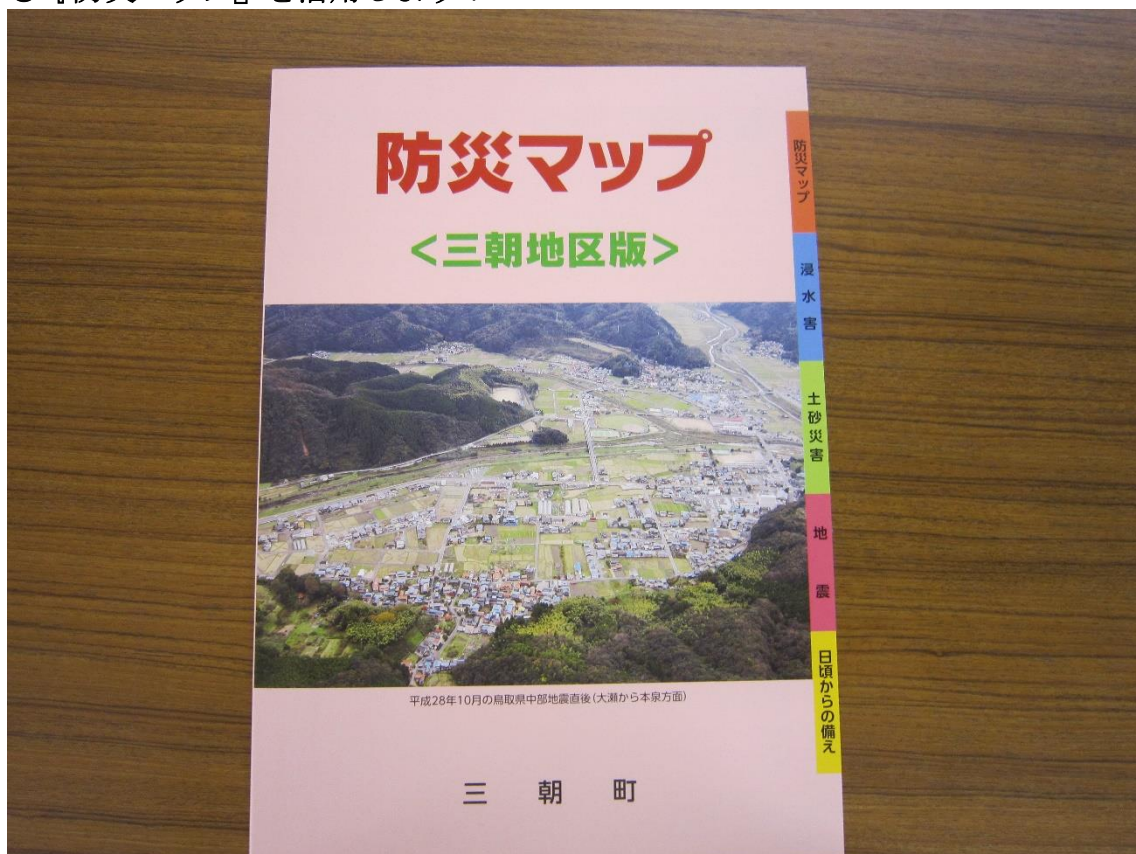
災害発生時には、まず自分で自分の身を守る『自助』、あるいは隣近所で助け合う『共助』が必要です。

つつい行政や公的機関による『公助』に頼ってしまいがちですが、先生はお話の中で、「災害の規模が大きくなるほど、救助にあたる行政機関も被災する可能性が高くなる。そうなってしまえば、すぐには救助できない。だから、災害発生時には最初は住民自らが自分で行動する必要がある。」とお話されました。

三朝町の例でいえば先生は防災マップ制作にあたって町内を回っている際に、住民の方から「いざという時は消防団がいるから大丈夫。」という声をよく聞いたそうです。

そのことについて先生は、自衛組織である消防団が活発であることはいいことである一方で、消防団員の方々も普段はお仕事で外に出られていて地域にいるとは限らない。だから防災について頼りきりになってしまうのではなく自分で備えることが必要と話しをされました。

○『防災マップ』を活用しよう！



さて、では災害時に自分や家族の身を守るにはどんなことが必要なのでしょう。先生は町で作成し、各家庭に配られている防災マップの活用についてお話されました。

先生がおっしゃったのは、防災マップは大事に保管してしまうのではなく、すぐに手の届くところに置き、たびたび開いて避難経路や周辺の危険なところなどを書き込んでいってほしいということでした。

また、防災マップをもって家族と地域を歩いてみるのが大切ともおっしゃって

ました。

そうすることで、実際に災害が起きた際に危険な場所を把握でき、いざという時に安全に避難できます。

また、地域を歩くときには、おじいさん、おばあさんやお父さん、お母さんがお子さん、あるいはお孫さんに過去に起こった災害の話や地域のこと伝えていくことで、小さな頃から防災意識が高まり、地域の防災力が向上するとのことでした。

○講義を終えて

最近、大きな災害が全国で発生していることもあり参加者された受講生は、先生の話に真剣に耳を傾け、熱心にメモをとっておられる姿が沢山みられました。

受講生からの感想でも、「とてもいい話が聞けた。」「防災マップを見直してみる。」「警報や避難勧告などの見方が分かった」といった声が多数あり、防災意識が高まりとても有意義な講座となったようでした。

○次回は「日帰り研修」日本遺產生野銀山見学！

次回の講座は10月18日（木）に日帰り研修と題して、日本遺産「生野銀山」に伺います。